

移住者日記

No.4



一般社団法人 ふたばプロジェクト 田口 隼人 様

大学卒業直前に父が47才で亡くなり、千葉県にある実家が売却されました。帰る場所（ふるさと）がなくなってしまうという強い喪失感を抱えたまま、医薬品関係の企業での社会人生活が始まりました。仕事に励む中で多くの人や考え方と出会い、父が亡くなった40代になったら、自分が一番納得できる形で社会貢献がしたいと考えようになりました。転機が訪れたのは約2年前、仕事中に帰還困難区域を通過した時です。バリケードや生え放題の草、人が住むことができない町を目の当たりにした衝撃とともに、町の様子と私の中にある喪失感が重なったように感じました。東日本大震災の発生時は北海道で勤務しており、被災地に支援物資を送ることしかできなかったという心残りもあり、町の再生をお手伝いしながら、町と一緒に成長し、この場所に新しいふるさとを作りたいと思いました。妻と三人の子どもたちは私の想いを理解してくれましたが、子どもたちの学校や生活環境のことを考え、単身での移住となりました。放射線に関しては、国が科学的な根拠に基づいて安全としていることもあり、私も家族も不安はほとんどありませんでした。

現在は移住・定住センターの開設業務を担当し、移住制度や町のことを分かりやすく伝えるための体制を整えています。時折、放射線に関する問い合わせを受けることもあります。専門知識のない私が答えることで不安にさせてしまわないよう、現時点では、放射線の専門機関に対応してもらうことが最善と考え、専門機関へのより良いバトンタッチの方法を検討しているところです。その上で、私も福島第一原子力発電所視察や座談会に参加し、放射線に関する知識や理解を深められるように勉強しています。経験豊富な先輩方の助けを得ながら、私自身が移住者であることも生かして、双葉町に移住して良かったと思ってもらえるよう支援を行っていきたいです。

プライベートでは、双葉町でのありのままの暮らしをSNSで発信しています。双葉町に興味を持ってもらえる一方で、正しく理解されていないことも多くあると感じています。私の暮らしを見ってもらうことで誤解や風評被害を少しでも払拭できるのではないかと考えています。休日は町内をジョギングしたり、町内のコミュニティやボランティア活動に参加したり、多方面で町の皆様と関わり、お手伝いをしたいと思っています。町の皆様と話をしていると、それぞれに様々な思いを抱いて、背負って、今を懸命に生きていると感じます。新生・田口のふるさとを作る機会を与えてくれた双葉町や町の皆様に感謝して、一緒に毎日を積み重ねていきたいと思います。